おおたま学園コミュニティ・スクールだより

令和８年１０月１３日発行　No.４６　おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
（事務局：大玉村教育委員会内　連絡先：４８－３１３８）

大玉中学校学校運営協議会（9/15)より

□　９月１５日（火）は大玉中学校において学校運営協議会が開催されました。
最初に参加者全員で５校時の全クラスの授業を参観し、普段の子どもたちの学習の様子を拝見させていただきました。通常の授業や学級合同の授業等、創意工夫がなされており素晴らしかったです。





１０月１７日（土）のあだたら祭に向け、班ごとに合唱練習をしていました。美しい歌声が響き渡っていました。（音楽科）



□　学校運営協議会では、大玉中学校が設定したテーマについて協議が行われ、活発な意見交換がなされました。以下全体共有で発表された内容です。

１．学校運営協議会テーマについて

協議テーマについて、生徒や教職員、保護者や地域の方々のそれぞれの立場で意見を出し合い、お互いの考えや思いを共有し、今後の学校教育活動の方向性を探る。

よきデジタル市民になるためにはどうあればよいか
～ 大玉村のさらなる発展のために ～
① 一人１台端末やスマートフォン等の望ましい使い方
② 幼・小・中の連携の視点から
③ 家庭・地域・学校との連携の視点から

２．生徒の実態について（毎学期にSNS調査を実施）

○ 大玉中生がほぼ毎日使用する機器として一番多いのがスマートフォンで、全校生（２５８人）のうち１８７人が使用している。次いでゲーム機、タブレットなどを使用してSNSや動画を視聴しているという結果が出ている。

○ 平日の平均使用時間 … 「３０分まで」、または「１時間まで」という生徒は少数で合わせても１４%程度。多くが「２時間まで」の使用で３１%、そして「３時間まで」が２６%、「４時間以上（中には５時間、６時間を超える生徒も）」は全体の１３%



○ 機器使用の目的 … 一番多いのが動画の視聴（１８２人）、次いでSNS、ゲーム、音楽

○ 「機器の使用やSNS利用について家庭内のルールはありますか」という質問に対しては、「ある」と回答した生徒が６０%、「ない」と回答した生徒が４０%

○ 今年度の全国学力学習状況調査の結果（SNSや動画使用時間と正答率の関係）から

＜国語＞ … 「３０分未満」の生徒 → 正答率が７０%超、「４時間以上」 → ６０%を下回る

＜数学＞ … 「３０分未満」の生徒 → 正答率６９．６%、「４時間以上」 → ４８．７%

○ 「総合的な学習の時間などでパソコン、タブレットなどのICT機器を使ってうまく情報を集めたり、整理して発表したりできていますか」という質問については、「当てはまる」３７．５%、「どちらかといえば当てはまる」４４．３%であった。タブレットなどを使用できる生徒ほど、国語や数学の正答率が高い結果も出ているので、一概に使用しない方が良いとは言えない。

※ 世界・国内の動向について

＜オーストラリア＞ １６歳未満のSNS利用を禁止する法律が２０２５年１２月に施行

＜インドネシア＞ 政府がハイリスクと分類するSNSについて１６歳未満のアカウントを停止

＜フランス＞ １５歳未満のSNS利用を禁止するという法律が２０２６年９月から開始

＜日本国内＞ 愛知県の豊明市では、全市民を対象に「１日の余暇時間のスマホ利用を２時間以内、中学生のスマホの利用は午後１０時まで」というような義務や罰則を課さない理念ではあるが、条例が出ている。神奈川県では、ネットやゲーム依存症対策条例が２０２０年に施行。埼玉県川口市でも、子どものインターネットの適切な利用の推進に関する条例というのが出ている。こういった利用に関する社会的な関心が非常に高まっている状況にある。

３．情報共有（協議内容の発表から…代表の４つの班）

＜ 発表１ ＞

○ 寝る３０分ぐらい前にはメディアを操作しない。

○ 使用時間を親と子で平等にしたらいい。

○ 教科書の内容をタブレットにしてほしい。１回だけでもいいので携帯を学校に持ってくる機会をつくる。そして、学級のルールを決めていきたい。



＜ 発表２ ＞

○　一人１台端末やスマートフォン等望ましい使い方

→ 学校と家庭では使い方が違うので、ルールを別々に決めた方がいい。

○　幼・小・中の連携の視点から

→ 幼・小・中それぞれの現状を共有していくことが大切。

○　家庭・地域・学校との連携の視点から

→ 学校では､端末やスマートフォン等の持ち込みについての連絡があってすぐに対応できるのだが、地域などでは連携が甘く、あまり取れていないと思うので、地域との連携がもっと大切。

○　使用制限はない方がいいと思う。使用制限のせいで、やりたいことができないデメリットがでてきてしまう。責任を持って扱えるようにすることが大事。

○　具体的な条件や使い方、マナーについて地域､学校でもう少し知る機会を増やせたらいい。

○　高齢者や子どもがインターネットを使用する機会を増やす。そんな場所をつくっていけたらと思う。多くの人がインターネットを正しく使える力を身につけることによって、大玉村の新たな未来が開ける（つくられる）のではないか。



← ＜ 発表３ ＞

＜ 発表４ ＞

○　メリットは、アンケートをとったり、AIやデジタル教科書を使ったり、ネットでいろいろ調べたりして情報を得ることができること。

○　デメリットもあって、体のコントロールとか健康面での影響等がある。また、ショート動画を見るのをやめられないという人が出てきてしまっていること。

○　前述のことについて家族等で話し合う機会や、危険な情報等を知る機会をもつことが必要だと思う。いい面と悪い面の両方があるので、それをコントロールすることが大事である。

まとめ（ＣＳ会長）

私たち大人も携帯に依存する場面があり、どうしても携帯を見る時間が多い親世代がいるのも事実です。親は子どもに「勉強しなさい。」と言うけれども、自分は携帯やテレビばかり見ていて不平等だと感じているという生徒の話もありました。大玉村がしっかりと幼・小・中連携をし、地域に根ざした教育をしていくためにも、大人が子どもの手本になれるようにするべきであると改めて感じました。「今日こういうことがあったね。」とか、「ご飯美味しいね。」とかの会話を楽しむ時間を持ちたいものです。

◎　生徒たちは、メディアのメリットもデメリットも理解しているようでした。自分の考えを持って使いこなせるように、大人と子どもがしっかりと話し合って、学校や家庭でルールを決めること、また、大人が子どもの手本になるよう行動することが大事であるという意見が出されていました。